

令和3年度 中部地区子ども支援 net 議事録

日時：令和3年10月15日（金） 13:25 ～ 15:30

方法：ZOOM

参加者：32名



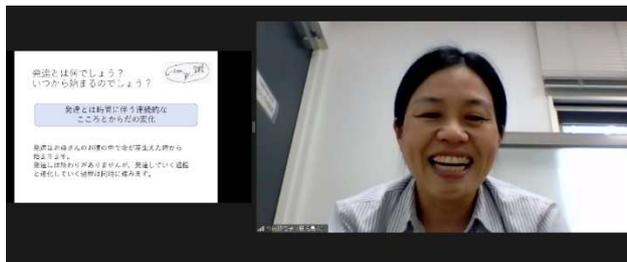
1. 開会あいさつ

奄美市福祉政策課 寿山 一昭 課長

2. ミニ研修

「発達年齢と子どもの育ち」

鹿児島大学障害学生支援センター 特任助教 今村 智佳子 氏



3. グループワーク

「奄美中部での障がい児やその家族を支える人たちの連携について」



○相談支援専門員の活用

- ・児童発達支援、放デイではいろいろな課題が多く、他機関と連携を取るのも簡単ではないが、連携で困ったときは相談支援専門員に繋ぐこと助けられている。（他機関との会議開催などでも。）
- ・就学や並行通園などで、まだ早いと思うような状況で、家族が先に進めたがるなど、支援者と家族の思いにズレがあるときは、相談支援専門員に間に入ってもらっている。
- ・医療的ケア児がある子どもの受け入れでは、その日に受け入れられる人数が決まっていて、ニーズとかみ合わない

時もあるが、相談支援専門員に協力してもらうことで、そのネットワークを活用し、他の機関とつないでもらうことができる。

○事業所・各機関利用時の課題

- ・幼児について、新規利用を定員の関係でお断りすることがあるが、就学前に児童発達支援に通所させたいという希望も出てくることもあり、調整が難しいこともある。
- ・奄美市では、1歳半と3歳に検診がある。言語面等で気になる時に、気がかりについて、親御さんに伝え、親子教室等を勧めるようにしているが、参加を断られることも多い。（就学が近くなると、不安に感じ、利用を希望する方が増える。）
- ・入所施設は定員枠を下げたことで、短期入所などお断りすることもある。成人の利用希望者も、お断りすることも。できるだけニーズにこたえられるように連携が取れたらよい。
- ・病院での言語リハビリを利用されている方の保護者は、言語の遅れやリハビリへのアドバイスは受け入れてくれるが、行動・発達面の懸念を伝えると、引いてしまうことがある。
- ・最近では ST（言語訓練）のニーズが高まっているため、受け入れられないこともある。
- ・奄美病院には最近、中高生の相談も増えている。アセスメントをとる中で、経緯を聞いていくと、幼児期から、いろいろと問題を抱えていると思われる子も多い。それぞれ関係者がそれぞれの立場で、連携及び役割分担しながら、早い段階から、支援や医療につなげられるように、保護者にも伝えてもらうことも必要。

○「連携」に関する現状及び課題について

- ・最近では、色んな機関と、徐々に連携やつながりが取れてきているようにも感じる。事例として、小児科医からの呼びかけで会議が開催されることもあった。
- ・普段関わる事業所などは、連携がスムーズになっているが、病院や学校との連携についてはハードルが高いと感じる。窓口が分かりにくく、誰を経由して連携をとっていけばよいか分からないことがある。
- ・学校は転勤などにより、先生の入れ替えが定期的にあるため、うまくいっていても、連携が取りづらくなってしまう事がある。
- ・これまで関わっていたところと、全く違う機関が関わろうとすると警戒されることもあるため、「それぞれの機関が持っている役割」や「それぞれの機関は何ができるか」などの情報をお互いが知り、顔の見えるネットワークを作っておく必要がある。
- ・保育所、幼稚園、療育など様々な支援を受けている人は、支援者同士が、他機関とお互いに、顔を合わせる事が少なく、支援がかみ合っていないように感じることもあり、難しさを感じている。
- ・保育所等訪問支援で、学校や保育所に行く際に、壁を感じることもある。

○質疑応答

- ・事業所の利用を始めさせたいとの希望があったが、なかなか保護者と連絡がとれない。そういう時はどうするか？
→事業所だけでなく、学校からも、訪問や連絡をしてもらう。相談支援専門員とも共有しながら、役場にも相談するのが良いという意見があった。（虐待の可能性も含め）
- ・家族への介入について、どこまで踏み込んだらよいのか？
→行政としては、身近で関わってくれる人から、家族の困りごと（病気等）について相談してもらえば、適切な対応ができる機関などにも、繋ぐことができるので、情報キャッチしたら、まず相談してもらいたい。それぞれの立場から見えた情報をしっかりと共有していくことが必要。

○他地域の現状及び課題について

- ・瀬戸内は療育施設が、ここ園しかないので、病院の専門職（ST,PT）を呼んで研修したり、直接病院に行き、リハビリについて学んだりしている。
- ・療育等支援事業で、當島先生に来ていただき、アドバイスをもらっている（ムーブメントなど）
- ・去年まで学校との連携がうまくいってなかったが、今年は特別支援コーディネーターとの話し合いの場を持っている。夏休みは特別支援員に来てもらっている。
- ・瀬戸内町の現状としては、土日の子どもの居場所が必要。ここ園もなかなかニーズに対応できないところもあるが、考えていきたい。
- ・瀬戸内町ならではの悩みだが、希望の星学園に入所したら、養護学校に通学できるということがあまり知られていない。養護学校はいつでも相談に応じてくれるとのことだったので、今後は学園や養護学校の見学会などしていきたい。

○研修及びグループワークの感想

- ・小さい時期からの関わりが大事と感じた。
- ・支援者（事業所、教育、保育、医療、行政 他）だけでなく、家族や地域との普段からの連携の大切さについても触れることができたのはよかった。

4.その他

○鹿児島県子ども総合療育センターより

- ・今年度、巡回相談の予定だった。コロナの影響でドクターのみの来島、オンラインで OT,PT,ST が対応するということとなったが希望者がいなかった。
- ・コロナが収まりつつあるので、現状のままであれば、来年度は、例年通りに戻す予定。巡回療育相談の来年度計画を立てるにあたって、この地域にどんなニーズあるか、OT、PT、S T は島内にいるのかなどの実態を把握したい。来年5月を予定している。

○チャレンジド・サポート奄美（県療育等事業）

- ・就学時親の会 10月23日（土）教育委員会推薦 申し込みは今日まで。
- ・もぐもぐ相談会 11月18日（木）県病院にて。現在受付中。
- ・ダウン症親の会 12月に予定。

○あまみ療育ネットワーク

- ・発達セミナー 11月20日（土） 対面研修（龍郷町 りゅうゆう館）/YouTube 配信
一部 10時～12時 「明日から実践、身体調和」
町田 順子 氏（保健師/（株）ゆう地域支援事業団代表取締役）
二部 13時～16時 「子どもの自己肯定感を育てるために私たちができること」
副島 賢和 氏（昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授）

○事務局より

- ・次回 南部子ども支援 net 1月14日 瀬戸内町にて対面で開催予定。